



第1回国立大学法人大阪大学債券
「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」
サステナビリティボンドレポート

2026年3月



目次

- ◆ 債券概要「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」 P. 2
- ◆ OUマスタープラン P. 3
- ◆ サステナビリティボンド・フレームワーク P. 4
- ◆ 資金の充当状況に係るレポーティング P. 5
- ◆ インパクト・レポーティング P. 6

債券概要「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」

発行目的

大阪大学では、個々人が社会で活躍できる寿命(社会寿命)を延伸させ、あらゆる世代の人々がその多様性を生かして社会を支え、全ての人が豊かで幸福な人生を享受できる社会を創造すること、すなわち「生きがいを育む社会の創造」に取り組んでいます。

本学は、それを実現する中長期的な戦略である「OUマスタープラン」の実施に向けた財務基盤の強化を目的として、国内大学では初となるサステナビリティボンドを発行いたしました。

債券概要

債券の名称	第1回国立大学法人大阪大学債券 サステナビリティボンド 愛称 「大阪大学 生きがいを育む社会創造債」	
債券の総額	金300億円	
利率	年1.169%	
償還の方法及び期限	2062年(令和44年)3月17日(金) 満期一括償還(40年債)	
払込期日(発行日)	2022年(令和4年)4月28日(木)	
格付	AA+ (株式会社格付投資情報センター) AAA (株式会社日本格付研究所)	
サステナビリティボンド・ フレームワーク評価	総合評価	SU1(F)*
	グリーン性・ソーシャル性評価(資金使途)	gs1(F)*
	管理・運営・透明性評価	m1(F)*

* 各評価は、株式会社日本格付研究所(JCR)の「JCRサステナビリティボンド・フレームワーク評価」よりいずれも高い方から、SU1(F)~SU5(F)、gs1(F)~gs5(F)、m1(F)~m5(F)の5段階

OUマスタープランの特徴

大学の中核となる教育、研究、経営を縦軸に、
これらを横断的に支える情報基盤整備、
グローバル戦略、Diversity & Inclusion、
豊かな時間の創出、ブランディングを
横軸として互いに編み合わせ、
網羅性と柔軟な発展性を合わせ持つ
中長期的なプランを策定。

教育 基盤

知性あふれる
人材の育成環境

未来社会の
あり方を創造し、
社会変革を導く
人材の育成

研究 基盤

自由な発想が
芽吹く環境

新たな社会の創造に
資する基礎研究の推進と
新たな価値の実装化への
先導

経営 基盤

共創を中核に
据えた経営

共創活動の
レベルアップと教育・研究・
業務システム改革による
経営基盤の充実

コロナ新時代に対応する情報基盤整備

多様な人材が輝くグローバル戦略とDiversity & Inclusionの深化

自由な発想が芽吹く豊かな時間の創出

社会との共創を醸成し、活性化させるブランディングの展開

調達資金の使途

ソーシャルプロジェクト

国立大学法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業かつ、「OUマスタープラン2027」として特定された事業

グリーンプロジェクト

国立大学法人法施行令第八条第四号（国立大学又は大学共同利用機関における先端的な教育研究の用に供するために行う土地の取得等）に該当する事業かつ、「OUマスタープラン2027」として特定された事業

さらに、以下1～3のいずれかを満たす事業

1. ZEB、ZEB Ready等を取得済みもしくは取得予定の建物の建設・取得
2. LEED認証、BELS認証等の環境認証を取得済みもしくは取得予定の建物の建設・取得
3. 太陽光発電設備の導入に関する事業

プロジェクトの評価と選定プロセス

適格プロジェクトの候補は、OU構想策定会議において決定されます。当該候補へサステナビリティボンドの資金を充当するにあたっては、教育研究評議会および経営協議会の審議を経て、役員会で議決を行います。

なお、適格プロジェクトの実施に付随する環境面及び社会面において想定される負の影響については、影響を緩和し、管理していることを予め確認しています。

調達資金の管理

調達資金は、大阪大学の財務会計システムにより入出金管理を行います。サステナビリティボンドによる資金の充当状況に係る帳簿は、財務会計システムにより記録した上で償還まで保管します。

サステナビリティボンドの入出金を含む財務状況全般について、年に一度、監査法人による会計監査を受けることとなっています。

なお、適格プロジェクトへの充当時期の遅れ等によりサステナビリティボンドによる調達資金の未充当期間が発生する場合、未充当金は現金または現金同等物にて管理・運用しています。

レポートニング

(1)資金の充当状況に係るレポートニング

大阪大学は、サステナビリティボンド発行から、サステナビリティボンドにて調達された資金が全額適格プロジェクトに充当されるまでの間、調達資金の充当状況に関する以下の項目について開示します。

1. 充当したプロジェクトのリスト
2. 各プロジェクトにおける充当金額
3. 未充当残高（償還までの間に資金充当対象設備を売却し再充当の必要がある場合を含む）

(2)インパクト・レポートニング

大阪大学は、サステナビリティボンド発行から償還されるまでの間、サステナビリティボンドの発行により実現する事業のインパクトを測定する重要指標について、実務上可能な範囲において以下の通り開示します。

ソーシャルプロジェクト

<アウトプット>

- ・ 対象となるプロジェクトにおいて取得した土地、設置・整備した施設や設備の概要等

<アウトカム>

- ・ ソーシャルプロジェクトに関与する研究者数及び学生数等
 - ・ ソーシャルプロジェクトに係る学術論文数及び単位取得数等
- #### <インパクト>
- ・ 社会との共創による「生きがいを育む社会」の創造

グリーンプロジェクト

- ・ 環境認証等の取得状況
- ・ 太陽光発電設備における発電容量・CO2排出削減量

資金の充当状況に係るレポーティング

サステナビリティボンドによって調達した資金は、「生きがいを育む社会の創造」の実現を目指し、「OUマスタープラン2027」の下で実施する以下の適格プロジェクトに充当されます。

資金充当状況（2026年3月時点）

適格プロジェクト名	充当額
① 産学官共創活動の推進を目的とした、文部科学省が推進するイノベーション・commons（共創拠点）の整備	224億円 (74.7%)
② Well-being実現のための未来社会創造に資する教育研究環境の整備	
③ 教育・研究・経営を横断的に支える基盤の整備	40億円 (13.3%)
未充当残高	36億円 (12.0%)
調達額	300億円

◆ ①、②のプロジェクトについては、両プロジェクトを横断する取組に資金を充当しています。

◆ 未充当残高は、①～③のプロジェクトに充当されるまでの間、現金または現金同等物にて適切に管理・運用します。

- ① 産学官共創活動の推進を目的とした、文部科学省が推進するイノベーション・コモンズ（共創拠点）の整備
- ② Well-being実現のための未来社会創造に資する教育研究環境の整備

／ ソーシャルプロジェクト

不足する教育研究・産学連携スペースの確保、学生が企業や地域コミュニティなどと交流するスペースを整備するとともに、多様な研究者の叡智を結集して、分野を超えた融合研究を推進します。

アウトプット

ラボ棟（仮称：吹田アゴラ、豊中アゴラ）の建設等

吹田アゴラ（約8,952㎡）	豊中アゴラ（約15,000㎡）
実施設計完了（2025年6月） 建設工事開始（2025年7月～） （今後のスケジュール） 施設整備 2027年3月：完成予定	実施設計中 （今後のスケジュール） 施設整備 2026年3月：仮設工事開始 2026年9月：着工予定 2028年8月：完成予定

アウトカム

ラボ棟に関する研究者数
 関係する研究者による学術論文数 ※竣工後に開示予定

インパクト

プロジェクトの達成を通じ、「社会と知」の融合と幅広いステークホルダーとの交流・連携・協働を促進し、様々な社会課題を解決する技術の開発によって、「生きがいを育む社会の創造」を実現します。

また、持続可能な社会の実現のため、右記のSDGsに貢献します。



／ グリーンプロジェクト

環境認証等の取得状況

吹田アゴラはZEB Readyを取得（2025年12月）
 豊中アゴラはZEB等、環境認証を取得予定



吹田アゴラ完成イメージ

③ 教育・研究・経営を横断的に支える基盤の整備

ソーシャルプロジェクト

コロナ新時代に対応する情報基盤や、多様な人材が輝く安全かつ快適で持続可能なキャンパス空間の整備により、本学の教育・研究・経営の基盤を支えるキャンパス整備を促進します。

アウトプット

情報基盤設備（ONION）に代表される教育・研究設備の整備（2026年度 整備完了予定）

- ・D3センターのサーバ棟改修、生体認証等のセキュアな管理機能を備えた設備整備（2025年9月 完了）
- ・ONION拡張、高速ネットワーク機器整備（2026年度 完了予定）

アウトカム

本学の研究データを情報基盤設備（ONION）に集約・蓄積し、大学全体で一元的に運用管理することによる、オープンサイエンス及びデータ駆動型研究等の飛躍的な推進

インパクト

プロジェクトの達成を通じて、学内のみならず、産業界など全世界との研究データ連携が可能となり、共創による社会課題の解決を促進することで、「生きがいを育む社会の創造」を実現します。

また、持続可能な社会の実現のため、右記のSDGsに貢献します。



情報基盤設備（ONION）概要

本学のオープンサイエンス及びデータ駆動型サイエンスの研究活動に欠かせない研究データは、学内において各研究室や部局で個別に管理されていますが、これを情報基盤設備（ONION）に集約、蓄積し、大学全体で一元的に運用管理し、より安定・安心かつ高速な研究データ基盤へのアクセスが実現できることで、ビッグデータの解析にも耐えうるようになり、本学のオープンリサーチ・オープンイノベーションの飛躍的な加速が期待できます。

また、国立情報学研究所（NII）が提供するGakuNin RDMと連携させることにより、他大学・企業・海外機関等と安心かつ高速なデータ連携ができ、地域共創、国際共創、産学共創に活用することが可能になります。

情報基盤設備(ONION)イメージ

